

はぎじょうせき そとほりちく 萩城跡 (外堀地区) 萩市北片河町 南片河町



萩城・城下町

城下町の建設

関ヶ原の戦いで敗者となった毛利氏は、それまでの中国地方8国から周防・長門の2国に領地を減らされました。そこで、山口県の北部、萩市の指月山に城（萩城。指月城ともいう。）を築き、松本川と橋本川にはさまれた三角州に城下町をつくることにしました。

指月山の頂上に砦を構え、城は内側から内・中・外三つの堀で区画されました。

- ・内堀でかこまれた内部（本丸） 藩主のすまいや役所の建物
- ・内堀と中堀の間（二の丸） 本丸を守るための矢や鉄砲を発射する建物や見張りの建物など
- ・中堀と外堀の間（三の丸） 上級家臣の居住区
- ・外堀より外側（城下町） 中・下級家臣の屋敷、大商人の屋敷、商人や職人の家屋や長屋

ここがポイント

領主が土地を所有し、主従関係によって身分ごとに敷地を分けるなど、江戸時代の町並みのようすがよく残っています。ここで西洋技術を取り入れる目標や計画が立てられ、高度な匠の技がはぐくまれたことにより、幕末（江戸時代のおわりころ）に日本の産業化が急速に進められました。

発掘調査

町屋のくらし

萩城跡の外堀に面して広がっていた、石垣で仕切られた秩序正しい町屋（商人や職人などの住む、現在でいう店舗兼住宅）が掘り出されました。また、模様がかけられた碗や皿、ままごと道具、硯、基石、かんざし、煙管など、町人たちのくらしぶりがうかがわれる品々が見つかりました。